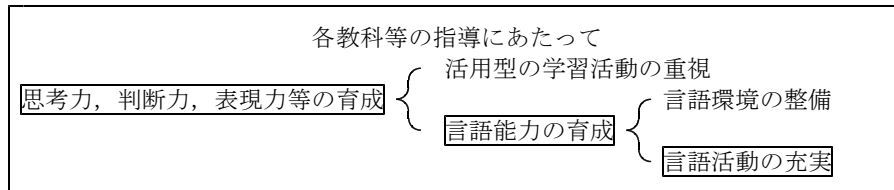


## 国語科を中核に各教科等で「言語活動の充実」をはかるための資料（中学校）

### 1 何のための「言語活動の充実」か

中学校学習指導要領第1章第4の2（1）

各教科等の指導に当たっては、生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、生徒の言語活動を充実すること。



### 2 育成する「言語能力」とは何か？そのための言語活動例は？

後付資料参照（これらの内、各教科等の活動に合う部分を活用するとよい）

学習指導要領解説国語編より抜粋

### 3 各教科等において、どのような言語活動をすればいいのか？

中学校学習指導要領解説総則編第5節1（p62）

----- 言語活動の充実について【例】 -----

社会：「持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる」

数学：「数学的な表現を用いて、根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う」

理科：「問題を見だし観察、実験を計画する学習活動、観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動」

音楽：「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」

美術：「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと」

技術・家庭：「衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動」

保健体育：「作戦などについての話し合いに貢献しようとする」

外国語：「言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」

道徳：「自分の考えを基に、書いたり討論したりするなどの表現する機会を充実」

総合：「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること」

特別活動：「体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの活動」

### 4 言語活動の充実とセットの「言語環境の整備」とはどういうことか？

学習指導要領解説総則編第5節1（p63）

1 言語に関する能力を向上させ、言語に対する意識や関心を高め理解を深めることは、各教科等における指導だけでなく、学校生活全体において配慮することが大切である。

- 生徒が日常生活における言語の役割や機能などについて意識や関心を持ち、正しく美しい国語を用いるように指導していくことが必要。
- 教師自身も言語に対する意識と関心をもって指導に当たることが必要。

2 生徒の言語活動は、学校における環境に大きく影響される。したがって、学校生活全体における言語環境を十分に整備しておくことが大切である。

例えば、

- ① 教師は正しい言語で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書く。
- ② 校内の掲示板やポスター、生徒に配布する印刷物において用語や文字を適正に使用する。
- ③ 校内放送において、適切な言葉を使って簡潔に分かりやすく話す。
- ④ 適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用する。
- ⑤ 教師と生徒、生徒相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくる。
- ⑥ 生徒が集団の中で安心して話ができるような教師と生徒、生徒相互の好ましい人間関係を築く。

なお、色のみによる識別に頼った表示方法をしないなどの配慮も必要。

また、国語科の指導においてはもとより、その他の教科等においても、生徒による発表、討議、ノート記述、レポート作成などの言語活動を活発かつ適正に行わせ、豊かな言語能力を養っていくよう配慮していくことが大切。

「話すこと・聞くこと」の言語活動

I 目標—育てる言語能力等—

	第1学年	第2学年	第3学年
話すこと・聞くこと	目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて <b>構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力</b> を身に付けさせるとともに、 <b>話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度</b> を育てる。	目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて <b>立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力</b> を身に付けさせるとともに、 <b>話したり聞いたりして考えを広げようとする態度</b> を育てる。	目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて <b>相手や場面に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力</b> を身に付けさせるとともに、 <b>話したり聞いたりして考えを深めようとする態度</b> を育てる。

II 指導事項

	第1学年	第2学年	第3学年
話題設定・取材	日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための <b>材料を人との交流を通して集め整理すること。</b>	社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための <b>材料を多様な方法で集め整理すること。</b>	社会生活の中から話題を決め、 <b>自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする</b> こと。 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、 <b>敬語を適切に使うこと。</b>
話すこと	<b>全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。</b> 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。	<b>異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。</b> 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。	
聞くこと	必要に応じて <b>質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。</b>	<b>話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。</b>	<b>聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。</b>
話し合うこと	<b>話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。</b>	<b>相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。</b>	<b>話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かしながら話し合うこと。</b>

### Ⅲ 言語活動（例）

#### 1 報告・紹介・説明・発表・スピーチ

	第1学年	第2学年	第3学年
概要	日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。	調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。	時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「報告や紹介」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝える事柄や事実と、それに対する自分の考えや感想などとの関係に注意して話させる。</li> <li>・ 何のために報告したり紹介したりするのかという目的や、相手はその話題についてどのような点に関心があり、どのような情報を既にもっているかなどの状況によって、報告や紹介の仕方を変えさせる。</li> <li>・ 実際に報告したり紹介したりする場面では、聞き手から質問したり、内容や伝え方について助言し合ったりする場を設けることで、表現の仕方や聞き方を互いに学び合わせる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「説明・発表」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明の中でどこが大切なのか、何を伝える必要があるのかを意識し表現を工夫する</li> <li>・ 自分が調べたり考えたりしたことを聞き手に理解してもらえるように話すことや、聞き手から意見や質問、助言をもらう</li> <li>・ 聞き手は、事実と意見との関係や話の筋道を検討しながら聞き取り、分かりにくいところを質問したり、話の内容や話し方について意見を述べたりする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「スピーチ」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「時間や場の条件」とは、何分程度で話すのかといった時間的な制約や、話す場の広さ、聞き手の人数、聞き手の立場や考え、利用可能な機器など、実際に話をする上での様々な条件</li> <li>・ プレゼンテーション、ポスターセッション等、様々な活動の中で話すことを含んでいる。</li> <li>・ 互いの工夫を評価し合い、自分の表現の参考にしていく</li> </ul> </li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年
国語科教材			
他教科での活用場面			

## 2 対話・討論・説得

	第1学年	第2学年	第3学年
概要	日常生活の中的话题について <b>対話や討論</b> などを行うこと。	社会生活の中的话题について、 <b>司会や提案者などを立てて討論</b> を行うこと。	社会生活の中的话题について、 <b>相手を説得するために意見を述べ合う</b> こと。
指導上の留意点	<p>○ 「対話や討論」の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話の要点をメモしたり必要に応じて質問したりしながら聞き取り、互いの共通点や相違点を整理することを通して、建設的な話し合いをさせる。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">* 討論のルールや形式、方法などについては小学校で指導している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日ごろから少人数での話し合いを行ったりグループ学習などの際にも役割を分担したりするなど、既習の事項について様々な機会をとらえて習熟させていく。</li> </ul>	<p>○ 「討論」の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活の中から多様なとらえ方や考え方ができる話題を取り上げて、司会や提案者などの役割を決めて話し合う。</li> <li>司会は、討論が目的に沿って進むよう、提案や発言の内容を整理する</li> <li>提案者は、提案理由や提案の趣旨を明確にするとともに、異なる立場の考えを想定して、自分の考えを分かりやすく話す</li> </ul>	<p>○ 「相手を説得するために意見を述べ合うこと」の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「相手を説得する」とは、話の内容を相手に理解させ、納得させることである。話の内容を相手に理解させるためには、論理的に話す力が要求される。</li> <li>論理だけではなく、自分の考えを相手に受け入れてもらえるよう、「相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと」も求められる</li> <li>根拠を明確にすること、強調して表現すること、適切な言葉遣いで話すことなどが、説得力を増すことにつながることを気付かせる</li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年
国語科教材			
他教科での活用場面			

## 「書くこと」の言語活動

### I 目標—育てる言語能力等—

	第1学年	第2学年	第3学年
書くこと	目的や意図に応じ、 <b>日常生活</b> にかかわることなどについて、 <b>構成を考へて的確に書く能力</b> を身に付けさせるとともに、 <b>進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度</b> を育てる。	目的や意図に応じ、 <b>社会生活</b> にかかわることなどについて、 <b>構成を工夫して分かりやすく書く能力</b> を身に付けさせるとともに、 <b>文章を書いて考えを広げようとする態度</b> を育てる。	目的や意図に応じ、 <b>社会生活</b> にかかわることなどについて、 <b>論理の展開を工夫して書く能力</b> を身に付けさせるとともに、 <b>文章を書いて考えを深めようとする態度</b> を育てる。

### II 指導事項

	第1学年	第2学年	第3学年
課題設定や取材	<b>日常生活</b> の中から課題を決め、 <b>材料を集めながら自分の考えをまとめること</b> 。	<b>社会生活</b> の中から課題を決め、 <b>多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること</b> 。	<b>社会生活</b> の中から課題を決め、 <b>取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること</b> 。
構成	<b>集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考へて文章を構成すること</b> 。	<b>自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること</b> 。	
記述	伝えたい事実や事柄について、 <b>自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと</b> 。	事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、 <b>説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと</b> 。	論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、 <b>説得力のある文章を書くこと</b> 。
推敲	書いた文章を読み返し、 <b>表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること</b> 。	書いた文章を読み返し、 <b>語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること</b> 。	書いた文章を読み返し、 <b>文章全体を整えること</b> 。
交流	書いた文章を互いに読み合い、 <b>題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること</b> 。	書いた文章を互いに読み合い、 <b>文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること</b> 。	書いた文章を互いに読み合い、 <b>論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること</b> 。

### Ⅲ 言語活動（例）

#### 1 鑑賞文・詩歌や物語の創作

	第1学年	第2学年	第3学年
概要	関心のある芸術的な作品などについて、 <b>鑑賞したことを文章に書くこと。</b>	表現の仕方を工夫して、 <b>詩歌をつくったり物語などを書いたりすること。</b>	
指導上の留意点	<p>○ <b>「鑑賞文」の指導</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>* 「芸術的な作品」とは、絵画や音楽、彫刻や建築物などを含め、広く考えることができる。</p> <p>・ 「鑑賞」とは、表現の仕方、内包されている意思などについて、多様な角度から光を当て、そのよさを見極めたり味わったりすること</p> </div> <p>・ <b>対象や素材の表現の仕方、作り手の思いや見方、作品から受けた印象や感動などについて触れる</b></p>	<p>○ <b>詩歌や物語の創作</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りの物事や体験、心の動きなどをとらえて詩歌をつくったり物語を書いたりすることは、<b>生徒のものの見方や感性を豊かなものにするにつながる。</b></li> <li>・ 事柄や心情が相手に伝わるように、<b>描写を工夫して書くことなどの指導に効果的</b>である。</li> </ul>	

	第1学年	第2学年	第3学年
国語科教材			
他教科での活用場面			

## 2 説明文・記録文・意見文・批評文

	第1学年	第2学年	第3学年
概要	図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。	多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。	関心のある事柄について批評する文章を書くこと。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「説明文・記録文」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手や目的に応じて伝えたい<b>事実や事柄を的確に記述</b>する</li> <li>・ 目的や意図に応じて<b>事実や事柄といった情報を正確に記述</b>する</li> <li>・ <b>効果的な図表の使い方</b>について考えさせる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「意見文」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>社会生活</b>の中の様々な問題を取り上げる</li> <li>・ 読むことの指導と関連させて、<b>説明的な文章における筆者の意見や論の進め方、文学的な文章における登場人物のものの見方や考え方</b>などを取り上げる</li> <li>・ <b>どのような事柄についてどのような意見</b>をもち、<b>どのような論の展開</b>で記述するかを考え、論点について賛成か反対かなど<b>自分の立場を決め、自分の考えの中心や主張を明確にして書く</b>ようにする</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「批評文」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「<b>批評</b>」とは、<b>対象とする事柄について、そのもののよさや特性、価値などについて、論じたり、評価したりすること</b></li> <li>・ 「<b>関心のある事柄</b>」については、<b>社会生活</b>にかかわる様々な事物や出来事を考えることができる。</li> <li>・ <b>書き手の視野の広さや、論理的に物事を考える力が大切</b></li> <li>・ <b>関心のある事柄について、関連する事柄や背景などにも興味をもたせ、書き手の主観だけでなく、客観的、分析的に物事を見つめる姿勢をもたせる</b></li> <li>・ 記述に際しては、<b>対象となる事柄を分かりやすく説明したり、判断や評価の理由や根拠などを明確に示したりする</b></li> </ul> </li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年
国語科教材			
他教科での活用場面			

### 3 案内文・報告文・手紙・編集

	第1学年	第2学年	第3学年
概要	行事等の案内や報告をする文章を書くこと。	社会生活に必要な手紙を書くこと。	目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること。
指導上の留意点	<p>○ 「案内文・報告文」の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手や目的に応じて、伝えるべき事柄を簡潔に分かりやすく書く。例えば、友人に伝える場合と、友人以外の第三者に伝える場合とでは、どのような情報を取り上げるかが変わってくる。</li> <li>伝えるべき事柄としては、行事名、日時、場所などという一般的なものに加え、それぞれの案内や報告に応じた個別的な要素が考えられる。</li> <li>形式も、ポスターやパンフレット、手紙、新聞などという多様なものの中から、目的や効果を考慮して選択することになる。</li> <li>読み手に分かりやすく伝えるための記述や構成の工夫などについて考えさせることが大切である。</li> </ul>	<p>○ 「手紙」の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手紙の種類としては、例えば、近況を伝える手紙、何かを依頼する手紙、お礼の気持ちを伝える手紙などがある。</li> <li>具体的な相手意識や目的意識が必要</li> <li>伝える相手の立場や気持ちに配慮するとともに、伝えたい内容の中心を明確にし、言葉を選び、気持ちを込めて書く</li> <li>手紙を書く相手を具体的に定め、郵便等を通じて実際に手紙のやり取りを行わせる</li> <li>書写の指導との関連を図ること、また、手紙の形式を覚えさせるだけでなく、形式の持つ意味について考えさせる</li> </ul>	<p>○ 「編集」の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一つの文章を書く力だけでなく、幾つかの文章を書いて組み合わせることを通して、総合的に考えたり伝えたりする力を高める上で効果的である。</li> <li>新聞やパンフレット、発表のための資料を編集する</li> <li>それぞれの形態に応じて、紙面構成を工夫したり、図表などを効果的に用いたりする</li> <li>複数の文章を集めて、課題やテーマに即して整理する</li> <li>文章を一つにまとめる意図や目的を明確にして編集する</li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年
国語科教材			
他教科での活用場面			



## 「読むこと」の言語活動

### I 目標—育てる言語能力等—

	第1学年	第2学年	第3学年
読むこと	目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。	目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。	目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。

### II 指導事項

	第1学年	第2学年	第3学年
語句の意味の理解	文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。	抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。	文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。
文章の解釈	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。	文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。	文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。
自分の考えの形成	文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。	文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。
読書と情報活用	本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。	多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。	目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。

### Ⅲ 言語活動（例）

#### 1 音読・朗読・感想の交流・批評

	第1学年	第2学年	第3学年
概要	様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。	詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。	物語や小説などを読んで批評すること。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「音読・朗読」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読や朗読を通して文章の内容についての理解を深めたり、感じたことや考えたことを声に表したりすることをねらいとしている。</li> <li>・ 相手に分かるように正確に音読したり、作品の形態や特徴を生かしながら朗読したりすることを通して、文章の理解を一層深める活動を行う</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「詩歌や物語の感想の交流」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の中でも特に言葉の使い方が洗練されている詩歌や物語などを読み、その作品に表れている登場人物の心情、書き手の思いや価値観、表現の仕方などについて感想をもち交流する</li> <li>・ 交流を前提とすることで、感想の対象となった部分や表現の特徴などを指摘するなど、自分の感想を具体的に考えるようになる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「批評」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語や小説を読み、作品の内容や登場人物の生き方、表現の仕方などについて批評する</li> <li>・ 対象とする物事や作品などについて、そのもののよさや特性、価値などについて、論じたり、評価したりする</li> <li>・ 物語や小説を適切に批評するためには、文章を主観的に味わうだけでなく、客観的、分析的に読み深める力が求められる。</li> <li>・ 語句や描写などについて、その意味や効果を評価しながら読む</li> <li>・ 適切な批評をするためには、作品を分析する力が必要</li> <li>・ 同じ作者による複数の作品や、類似したテーマの作品を読み比べる</li> </ul> </li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年
国語科教材			
他教科での活用場面			

## 2 説明文・記録文・評論文を読むこと

	第1学年	第2学年	第3学年
概要	文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。	説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。	
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「説明文・記録文を読む」指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図表が文章の中心的な部分、又は付加的な部分のどの部分と関連しているのかを確認させるなどして、書き手の伝えたい内容をより的確に読み取らせる</li> <li>・ 「B書くこと」(2)の「イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。」と関連させて指導する</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「説明文・表論文を読み考えを述べる」指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明や評論などの文章を読むことを通して書き手のものの見方や考え方をとらえることで、読み手自身のものの見方や考え方を豊かなものにしていく</li> <li>・ 書き手のものの見方や考え方がどのように表されているかなど、表現の仕方について考えさせる</li> <li>・ 書き手の工夫がみられる表現、書き直した方がよいと思われる表現について、根拠を具体的に挙げながら検討する</li> <li>・ 視点を変えて文章を書き換えさせるなど、内容や表現の仕方について理解を促す</li> </ul> </li> </ul>	

	第1学年	第2学年	第3学年
国語科教材			
他教科での活用場面			

### 3 引用・紹介・情報の比較・読書

	第1学年	第2学年	第3学年
概要	課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。	新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。	論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「引用・紹介」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疑問に思っていることや解決したいことなどに資する本を読むだけではなく、書評や広告などを見て、気になっている本や面白そうだと<b>思った本を読む</b>など、生徒一人一人の読書生活によるものを含んでいる。</li> <li>・ 他人と<b>ものの見方や感じ方に違い</b>があることを学んだり、<b>新しい発見</b>をしたりするなど、<b>考えの広がりや深まりを生む授業</b>を展開できる。</li> <li>・ 表現方法としては、<b>本の帯や広告カード(ポップ)作り、ブックトーク</b>などが考えられる。</li> <li>・ 引用の際には、<b>かぎ(「」)</b>でくくること、<b>出典を明示</b>すること、<b>引用部分が適切な量</b>であることなどが大切</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「得た情報の比較」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの<b>情報手段や施設</b>などの特徴及びそこから得られた<b>情報の特徴</b>について考えさせる。</li> <li>・ <b>自分の考えの根拠</b>にしたり<b>具体例</b>として取り上げたりすることが考えられる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「情報の比較」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書き手が論説の対象として取り上げた物事について、<b>どのような立場からどのような論を展開しているか</b>を読み取る</li> <li>・ <b>起こった出来事</b>をとらえ、それについて書き手がどのように報道しているかを読み取る</li> </ul> </li> <li>○ 「読書」の指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>どんな本に興味をもち読んできたのか、読んでいない分野は何か、今後はどんな本を読みたいのかなど</b>、読書生活全体を<b>取り上げて授業を展開</b>する</li> </ul> </li> </ul>

	第1学年	第2学年	第3学年
国語科教材			
他教科での活用場面			